



日立市コミュニティ推進協議会

「未来」に向けた 時代にふさわしい新たなコミュニティへ！

コミュニティ推進協議会は、「コミュニティ活動を中心とした支え合いのまち」の実現のため、新たなコミュニティ創造へ向けて8つのテーマで議論・研究をしています。

新たな支え合いのまちの実現へ8つの推進会議で議論

日立市コミュニティ推進協議会は、昨年12月、市とともに「日立市コミュニティ活動推進行動計画」を策定しました。基本方針である「コミュニティ活動を中心とした支え合いのまち ひたち」の実現のため、8つの推進会議を立ち上げて議論を重ねています。「未来」に向けた、新たなコミュニティへ、今後も各課題の解決に向けて、一丸となって検討を進めます。



会議の様子

新たな人材発掘会議

活動の中心となるメンバーの世代交代がスムーズに進み、全住民対象とした持続可能な組織になるよう、新たな人材発掘や育成などの仕組みについて検討しています。

活動の再点検推進会議

現在行っている活動を、全コミュニティ共通で行うべき活動と、地域特性に応じて取り組むものに分類し、継続した活動が進められる環境づくりについて研究をしています。

コミュニティのよりどころ策定会議

コミュニティ活動を行う目的や目標を明確にするため、活動のよりどころとなる(仮称)コミュニティ憲章の策定を進めています。

財政強化推進会議

事務処理の効率化を図るとともに、活動予算を「見える化」し、住民に分かりやすい財政にするための、予算書の様式や会計処理方法の統一などを進めています。

コーディネーター検討会議

広い視野で活動の全体を把握し、課題解決に向けた助言などを行う(仮称)まちづくりコーディネーターの配置を検討しています。

広報活動推進会議

様々な手段で広報活動を積極的に行っていくとともに、「コミュニティ活動ハンドブック」の改訂や「交流センターパンフレット」の作成を進めています。

地域のつながり推進会議

自治会・町内会を始めとしたさまざまな「地域のつながり」について調査・研究し、それらを維持・拡大するための方策について検討しています。



有償ボランティア検討会議

ボランティア活動におけるモチベーションを維持するため、公益性、拘束性、地域貢献度などに応じて、有償化することを含めた仕組みについて検討しています。

市長との懇談会 新たな未来を切り拓くまちづくり



未来のまちづくりへの船出

7月14日(木)、コミュニティ代表者と小川市長との市政懇談会が開催され、各会長など約40名が参加しました。

市長の講話では、今年度は「日立市総合計画」に基づくまちづくりの船出の年であり、日立市が活力を維持し、市民の誰もが安心して豊かに暮らせる未来を築くため、中長期的な視野に立ち、時代の変化を的確に促したまちづくりを基本とし、事業を進めるとの話がありました。その後、今年度も重点的に取り組む新型コロナウイルス感染症への対応をはじめ、新総合計画に定める6つの柱に沿って、主な事業について説明されました。特に、デジタル化や脱炭素化への取組みについては、積極的に進めていきたいとのことでした。

参加者からは、学校再編、各コミュニティのデジタル機器の整備、鮎川・城南道路の整備、防犯カメラの整備、コミュニティ活動の担い手不足、市OBへのボランティアの呼び掛けなどの質疑や要望があり、市長は丁寧に応えられました。

コミュニティでの環境美化活動 初のスポ GOMI 大会を契機にゼロカーボンシティへ

日立市は、平成17年3月25日に「環境都市・日立」を宣言、令和4年3月2日に「ゼロカーボンシティひたち」を表明しました。

今年度からコミュニティ推進協議会は、脱炭素社会に向けた全世代型コミュニティ環境活動の充実を目指します。

5月28日(土)、日立市主催で実施された「スポ GOMI 大会 in 常陸多賀」に、23のコミュニティから、1チーム3人編成で参加、このイベントの全参加者は123人(41チーム)、拾ったごみの重量は97.3kgでした。



ごみ拾いはスポーツだ!

この競技方法は拾ったごみを、燃えるごみ、燃えないごみ、びん、缶、ペットボトル、たばこの吸い殻に分別し、ごみの種類と重量でポイント得点を換算します。

結果は、第2位に滑川学区(GOMI バスターズ)、第3位に助川学区(すけがわ)が上位入賞、オリジナルアイテム賞を大沼学区(BM2)が受賞しました。

今後、楽しみながら環境を考える機会になるこのイベントを広く展開するために、各コミュニティで企画検討しています。大みか学区では10月に「スポ GOMI 大会 in 大みか」を開催する予定で、学区の住民をはじめ、企業、茨城キリスト教大学の学生にも声をかけ、この運動を盛り上げていきたいと話しています。

環境活動交付金 新たな事業に有効活用

日立市は、豊かな自然を守り、環境にやさしい持続可能なまちづくりを行い、脱炭素社会の実現と安心して暮らせる社会を引き継いでいくことを目指しています。

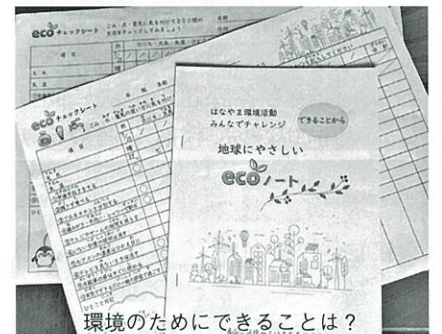
この目標を達成するため、今年度、コミュニティ環境活動交付金が各コミュニティに交付されました。

この交付金は、各コミュニティが実施する「環境美化活動」「環

境に関する普及啓発活動」「省エネ化・省資源化・脱炭素化の推進」「4R(リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル)の推進」などの環境に関する自主事業の運営に要する費用に充てられます。

交付金の使い方は、各コミュニティの運営方針により、独自の発想で、工夫しながら活用することとなります。次世代に誇れる環境の実現に向け、有効な用途を検討しています。

塙山学区では大人も子どもも日常生活のエコチェック、独自のエコノートの作成、ガス、電気、上下水道の使用量チェック、エコな生活アイデア募集などの活動を始めています。



環境のためにできることは?

市民の誰もが自分の住むまちの環境に関心を持つことから、ゼロカーボンシティ実現への一歩がはじまります。

地域のニーズに応えるコミュニティ 皆さんと一緒に、安全で安心して暮らせるまちづくり!

| 地区・学区 | 会長 | 交流センターTEL |
|-------|-------|-----------|
| 十王 | 川井 健一 | 39-2411 |
| 豊浦 | 大場 進一 | 43-5755 |
| 日高 | 志賀 勝弘 | 42-4050 |
| 田尻 | 大森 健一 | 42-1552 |
| 滑川 | 遠藤 一男 | 22-1654 |
| 宮田 | 岩間 廣道 | 27-6835 |
| 中里 | 石川 諒一 | 70-8005 |
| 仲町 | 大畑 信一 | 21-5564 |
| 中小路 | 吉岡 保夫 | 22-6483 |
| 助川 | 秋山 竹彦 | 23-0955 |
| 会瀬 | 須田 育慎 | 25-1577 |
| 成沢 | 西 英信 | 35-5587 |

| 地区・学区 | 会長 | 交流センターTEL |
|-------|-------|-----------|
| 油繩子 | 白土 敏夫 | 38-7531 |
| 諏訪 | 持田 幸雄 | 33-3841 |
| 大久保 | 岡部 光雄 | 34-0535 |
| 河原子 | 鈴木 東男 | 33-3746 |
| 塙山 | 西村ミチ江 | 34-5404 |
| 大沼 | 佐藤 忠良 | 35-8329 |
| 金沢 | 泉 聡二 | 36-3985 |
| 水木 | 森山 和雄 | 52-3225 |
| 大みか | 鈴木 重文 | 53-5211 |
| 久慈 | 石川 善憲 | 52-0165 |
| 坂下 | 大貫 健 | 52-3155 |

※お問合せ、ご相談は交流センターへ

まずは地域を知ることから! 市職員コミュニティ活動体験研修

日立市役所職員を対象とした「コミュニティ活動体験研修」が実施されます。今年度も、市の業務遂行の中心的な役割を担う監督職員と若手職員がチームを組み、合計126名がコミュニティ活動を体験します。

事前学習としてコミュニティ組織と活動の概要などを学んだ後に、研修生自らがコミュニティに出向きます。新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑みながら、楽しく活動していきます。

コロナ禍で工夫して子どもたちの楽しみを応援 祭りを取り戻したい賑わい

近年、厳しい社会情勢によりコミュニティは変質を余儀なくされています。新型コロナウイルス感染症にも苦しめられていますが、地域を盛り上げたい気持ちはずっと変わりません。

はなやま子ども夏まつり

7月23日(土)午後5時から2時間、「子ども夏まつり2022」を開催、申込み制で児童とその弟妹の207人、迎えの保護者も登録、児童引渡しをしました。

昨年12月4日の「はなやま子ども祭り2021」に続く第2弾。夏休みのスタートに楽しい時間を提供しようと、子どもが主役のまちづくり委員会(住みよいまちをつくる会、PTA)が主催したものです。



パチパチ楽しい

輪投げ、射的、巨大あみだくじなど7つの遊びコーナー、ビンゴ

ゲーム、親子で花火など楽しめるイベントを用意、久しぶりの夏イベントに、子どもの姿をスマホにおさめる風景が数多くありました。

成沢ふれあい夏祭り

3年振りとなる夏祭りを7月23日(土)午後4時から午後8時までの予定で実施しました。

いざ準備が完了し、開会宣言をしようとしていた時突然の雷雨に見舞われ、30分遅れの開会となってしまいました。



久しぶりで緊張

ステージでのカシンファミリーの演奏、パンダ応援隊と虹色ビー

玉の演奏で会場を盛り上げ、模擬店では焼きそば、フランクフルトなどで、作るのが間に合わない盛況ぶりでした。

午後6時から会場内の皆で輪になり盆踊りを行い、最後に大抽選会をして閉会をしました。新型コロナウイルス感染症の心配があり、開催には慎重を期しましたが子ども達の笑顔がとても素敵に見えました。

おおせ夏まつり

会瀬では、お盆の8月14日(日)、会瀬青年会主管の「第48回おおせ夏まつり」を「先人の鎮魂・住民の慰安・青少年の健全育成」をテーマに3年ぶりに開催しました。

コミュニティからは、生涯学習部「会瀬浜太鼓」、会瀬小体育館で練習をして臨んだ会瀬小3年生から高校生が披露しました。

また、盆踊りの部では、3年生から5年生は盆踊り、櫓の上で打ち手を6年生、助中生、高校生が花を添えました。

名物の水中花火では感動で大きな拍手が湧きあがりました。

敬老高齢者元気応援事業 80歳以上の高齢者にプレゼント

新型コロナウイルス感染症の拡大が続く中、不安な生活を送られている高齢者に、元気・活力を取り戻してもらうため、23の学区・地区コミュニティの実情に応じた生活応援品(品物または地域限定振興券)を贈り、元気を応援することになりました。対象者は80歳以上の高齢者です。

生活応援品、マスク、市長や地域からのメッセージなどが届きますので、楽しみにお待ちください。

もっと日立が好きになる! 日立の魅力再発見ウォーク



この先には何が...

秋の恒例行事となった日立の魅力再発見ウォークは、今年で24回目を迎えます。各コミュニティが地域の特色を活かした魅力的なコースを企画しています。

お住まいの地域に関わらず、どのコースにも参加できますので、ぜひ、たくさんのコースにご参加ください。コースによっては、参加賞があるかも!?

| 学区・地区 | 開催日 |
|-------|-----------|
| 豊浦 | 9月24日(土) |
| 河原子 | 10月1日(土) |
| 宮田 | 10月15日(土) |
| 大沼 | 10月16日(日) |
| 大久保 | 10月22日(土) |
| 油縄子 | 10月23日(日) |
| 諏訪 | 10月23日(日) |
| 久慈 | 10月29日(土) |
| 会瀬 | 10月30日(日) |
| 水木 | 11月5日(土) |
| 助川 | 11月8日(火) |
| 田尻 | 11月13日(日) |
| 中里 | 11月13日(日) |
| 仲町 | 11月13日(日) |
| 滑川 | 11月20日(日) |
| 中小路 | 11月23日(水) |
| 日高 | 11月27日(日) |
| 坂下 | 12月3日(土) |



大みかアートプロジェクト 地元企業や地域の人たちが関わり合いながら

大みかとその周辺地域はIT関連の企業や様々な工場が生業を見せています。この環境の中で、8月に「星と海の芸術祭」が開催されました。このまちで芸術祭？これって何？と思われる方がいるかもしれません。

発端は3年ほど前に遡ります。当時、東京芸術大学大学院生だった東弘一郎さんが制作した現代アート作品から始まったのです。複数の自転車を金属で接続加工し、動く立体作品にした現代アート作品です。これは岡本太郎賞等を受賞しています。



開会報告する東弘一郎氏

これらの現代アート作品を地方や地域のまちづくりに役立てられ

ないか模索していました。作品の設置場所を募っていることを知った、大みか在住の島田さんが申し出たことから話が立ち上がりました。

東さんの周辺の芸大のアーティスト、学生数人と島田さんからなるチームで令和3年2月に、大みかアートプロジェクトがスタートしました。

主要メンバーは東京周辺に居住しており、毎月、日立市を訪れては案を練り、プロジェクトを立ち上げてきたのです。日立市、特に大みか、水木、久慈浜、坂下の南部地域を中心に、その歴史や特徴を入念に調査するとともに、イベントを開催するなど、精力的な活動が進められました。

全ての作品は外部から持ち込むのではなく、地元企業や地域の人たちと関わり合いながら制作されます。近隣のコミュニティ、交流センターも、学区イベント開催と同時期に、作品の展示をする地域

の拠点として積極的に関わっています。

今年は「星と海の芸術祭」として企画され、8月11日から28日まで開催されました。JR大甕駅西口駅前と久慈漁港、久慈海水浴場をメイン会場とし、作品が展示されました。その他にも水木交流センターや地域の個人宅の敷地など8箇所にも作品を展示。



大甕駅西口会場の作品

並行して演劇のパフォーマンス、地域の人たちの木工、石ころお絵描き、空き缶アートなどのワークショップも開かれ、大人だけでなく子どもも楽しめる企画が用意されました。

地域を盛り上げ豊かにするこの芸術祭は今後も発展的に続けられていきます。

コミュニティ推進会 南部地区・多賀地区ブロック会議

令和3年度の会長会議の協議事項で「ブロック会議の開催」という提案があり、地域の情報共有や課題解決に向けた話し合いを行う目的で、6ブロック編成案が出されました。

南部地区ブロック会議は、大みか・水木・久慈・坂下の4つのコミュニティで編成、平成25年頃から合同行事の打ち合わせのため、会長が年数回集まっており、平成30年には会長、事務局長の会議とし、2箇月に1回開催、現在も

定期的に行っています。会場は持ち回り、それぞれの状況報告や予定について話し合っています。

南部地区は、集会所がたくさんある地域、学区が6号国道の両側にまたがっている地域、農家エリアと団地エリアに分かれている地域など様々です。このような地域で事業を行う際、情報を交換しながら南部地区の連携を深めています。

多賀地区ブロック会議は、油縄子・諏訪・河原子・大久保の4つのコミュニティで編成、昨年開催予定の会議は、コロナ禍で延期になっており、今年7月18日に初

のブロック会議を開催、それぞれの情報交換と、会議の主催、進行、開催日程、内容などについて話し合われました。

担当学区より提案された多賀地区ブロック会議の基本方針、今後の会議形態などを決めたあと、各学区で課題になっている「コミュニティ環境活動交付金」の使い方について、どのような対応をしているかなどの情報交換をしました。

今後、6ブロック会議が開催されるようになれば、コミュニティの連携がよくなり、活動への理解度が高まることが期待されます。